



芸術の秋 クラシックの秋♪

『ピエタ』大島 真寿美

ヴァイオリンの音色にのせて(スタッフ・O)

音楽を読む

時代は18世紀ヴェネツィア、『四季』の作曲家ヴィヴァルディは、孤児を養育するピエタ慈善院で音楽的な才能にすぐれた女性だけで構成される「合奏・合唱の娘たち」を指導していました。その教え子であるエミーリアに恩師ヴィヴァルディの訃報が届くところから物語は始まります。ピエタで育ったエミーリアが20年以上前に消えてしまった小さな楽譜を探し始めるとヴィヴァルディ先生の知られざる姿が浮かび上がってきます。史実に基づきながら、ドラマティックに展開されるストーリー。ヴァイオリンの美しい音色が流れ、遠くヴェネツィアの昔に思いをはせながら音楽とともに味わいたい小説です。



『ピエタ』大島 真寿美

出版社:ポプラ社
請求記号:913.6/オ
駅南図書館所蔵あり

ナクソスに
ログインして
アクセス!



『四季』は、多くの楽団が演奏していて、ナクソスで聴き比べることができます。「春」「夏」「秋」「冬」を聴いてみて、自分のお気に入りの季節の曲を決めてみるのも面白いかも?クラシック音楽が映える秋、バロック時代の作曲家の作品を聴いてみるのもいいかもしれません。



クラシックにふれよう

『くるみ割り人形』より

『第一幕ドロッセルマイヤーの登場【人形たちの踊り】』(スタッフ・I)

クリスマスの曲と言えばバレエ音楽『くるみ割り人形』です。この音楽は多くのCM等に使用されてとても馴染み深いものです。ところが、チャイコフスキーは、作曲に乗り気ではなく、オペラ作品のおまけと捉えていたようです。作曲家の死後、未熟な脚本を多くのバレエ団が独自の演出で上演したことが、知名度が上がった一因だと言われています。

私の一押しはボストンバレエ団です。「第一幕ドロッセルマイヤーの登場【人形たちの踊り】」で、なんと熊が登場します。着ぐるみを着たダンサーが贈り物のテディベアを演じます。激しくタンバリンが鳴り響く中、熊がモッフモッフとシコを踏み、スピンし、跳躍する姿は強烈です。熊もすごいです。曲自体の中毒性もかなりです。この機会に是非聴いてみて下さい。良いクリスマスを!



*ボストンバレエ団ではありませんがDVDの所蔵がございます。

くるみ割り人形(全2幕)(行徳図書館所蔵)
英国ロイヤル・バレエ団 ビョートル・チャイコフスキー/音楽
ピーター・ライト/振付 コロムビアME 2007年 D04/7/747
くるみ割り人形(中央図書館所蔵)
ポリシヨイ・バレエ ビョートル・チャイコフスキー/音楽
ユーリー・グリゴローヴィチ/振付 2005年 D04/7/1461

ナクソスにログインして
アクセス!



『くるみ割り人形』には「タイトルはわからないけれど、どこかで聴いたことがある…」という曲がいくつか出てきます。『金平糖の踊り』などがナクソスに収録されていますので、どんな曲が気になった方はぜひ探してみてくださいね。

吹奏楽コンクール

(スタッフ・Y)

音楽とわたし

私は子どもの頃からピアノを習ったり、吹奏楽部でクラリネットを吹いたり、音楽はずっと身近にありました。特に印象に残っているのは高校生の頃のコンクールで演奏した『吹奏楽のための叙事詩「ジャンヌ・ダルク」』です。この年はいつものように曲の練習をするだけでなく、ジャンヌダルクについて調べたり、『ジャンヌ・ダルク』という映画をみんなで鑑賞したりといつも以上に気合が入っていたような記憶があります。そのおかげか、小編成の部ではありましたが金賞を取ることができ、とても良い経験になりました。

今は楽器を演奏する機会はないのですが、音楽を聴くことは変わらず好きなので、これからもたくさん音楽に触れていきたいと思っています。

ナクソスにログインして
アクセス!



残念ながらナクソスでは『吹奏楽のための叙事詩〜』を聴くことができませんが、吹奏楽の音楽も多く収録されています。吹奏楽部に所属している方は、ぜひ聴いて参考してみてください!



編集担当のひとこと

もう11月。冬の足音が近づいてきた今日この頃です。冬のクラシック…と考えた時、なぜか最初に浮かぶのはベートーヴェンの「第九」の歓喜の歌。きっと年末の特番の印象が強いせいですね。ちなみに、年末に第九を演奏するのは日本だけなんだとか。希望に満ちたメロディーをナクソスで聴きながら、来年も素敵な年になるよう願いましょう♪(N)